

# 下 品 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ

東京物産展

TOKYO Japan's Capital City – 13 Million People – History – Commerce – Entertainment  
Hands-on: Tokyo Culture / Tokyo People / Tokyo Fashion / Tokyo Music / Tokyo Design / Tokyo Diversity / Tokyo Power

---

MADE IN TOKYO をキーワードに、デザインやアートなど多様な観点で、東京の文化を編集、発信するプロジェクト『東京物産展』は、世界最大級のデザイン・イベント「ミラノ・デザイン・ウィーク2014」に出展します。テーマは「日本人のコミュニケーション」 日本の喫煙ルームには平社員から社長までが集まり、ひとときの間、身分の差を超越してコミュニティが生まれます。

また居酒屋などで、隣りに居合わせた見ず知らずの人も、たばこの火を貸し借りすることをきっかけに会話が始まります。たばこは古くから「粋」を象徴するファッションツールでありながら、こういったコミュニティを生み出す手段にも使われてきました。コミュニティをつくる場としては、今の季節に催される花見という行事もあります。桜の木の下で、わずかな期間で散ってしまう桜の花の刹那を感じながら、人々が集まり宴を開くものです。

この花見が一般に知られるようになったのは、16世紀末に豊臣秀吉という武将が始めた醍醐の花見に由来されます。その場で設営される茶室などが作られ、桜の下で茶会が開かれました。この頃から既にコミュニティにはお茶会や移動可能な宴のシステムなどもあったことがわかっています。

そして今回この『東京物産展』の会場でご紹介する多彩なコンテンツはそれぞれに、日本ならではのコミュニティづくりを表現しています。

主 催: TOKYO BUSSANTEN

キュレーション: 柳本浩市(Glyph.)

協 力: 松竹(歌舞伎) ÉDIFICE(帽子) 甘養亭(和菓子) 151E(日本茶) 祇園ない藤(草履)

---

■ 歌舞伎 The Art of KABUKI : The Tradition of Theatrical Costumes across 400years



花川戸助六



三浦屋揚巻



三浦屋揚巻



髭の意休

© SHOCHIKU

日本の演劇を代表する「歌舞伎」の歴史は、1603年まで遡ることができます。

『当代記』という史料によると、当時、奇抜な格好をした「かぶき者」と呼ばれた人々がいて、そのかぶき者の扮装をまねた姿で遊ぶ様子を演じた「かぶき踊り」が非常に人気を得ていたそうです。

歌舞伎の歴史はこの「かぶき踊り」から始まったと言われています。日本の伝統的な色柄や歌舞伎独特の大胆奇想なデザインによる衣裳は、当時から人々の関心を集め、歌舞から影響を受けた服装が流行ることもあったそうです。

今回『東京物産展』でご紹介する歌舞伎の衣裳と小道具は、江戸の古典歌舞伎を代表する演目のひとつ、『助六由縁江戸桜』（すけろくゆかりのえどざくら）、通称『助六』（すけろく）で使用された4点です。

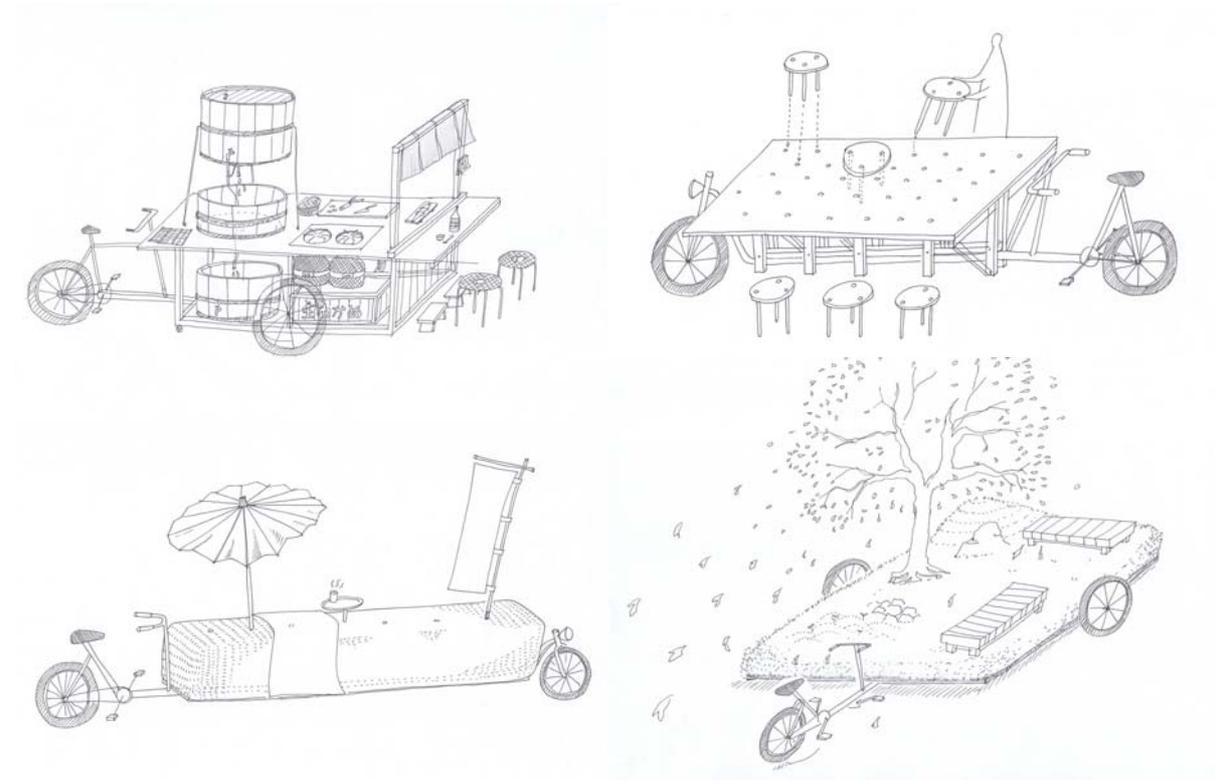
日本および江戸（東京）の文化を代表する多種多様なコンテンツの中から「嗜好品とデザイン」という視座で「歌舞伎」を観ると、この『助六』という演目は、小道具や衣裳を効果的に用いて、登場人物のキャラクターや社会的地位などの様子や変化を暗示していることに気がきます。

例えば、遊女達から贈られる「煙管」は、主人公 助六の男っぷり（粋な態度）を、恋人の揚巻の豪華絢爛な刺繍の打掛は、彼女が最も人気のある花魁ということを象徴しています。

〈あらすじ〉

親の仇を討つために宝刀を探していた曾我五郎（助六）と十郎の兄弟が、それぞれ侠客と白酒売りに身をやつして、吉原を探索していました。ある日、助六は、助六の恋人揚巻に言い寄る遊び人の髭の意休が持っている刀が、ずっと探しているその刀と知り、わざと喧嘩を仕掛け、見事な立ち回りで刀を奪い返します。

■ 屋台 Designed by Jo NAGASAKA



© TOKYO BUSSANTEN designed by Schemata Architects

日本の大衆文化の中に屋台があります。世界中に似たような屋台はありますが、本格的な調理などが出来、その場で屋台を囲んで食事を始めるようなものは少ないでしょう。日本では屋台でフランス料理のフルコースが出る事もあります。日本の屋台はそのものが最小の建築物になっています。しかも、その建築物は移動する事が出来ます。そして様々な人々がこの屋台に集まり、ひとときの間、その場所にはコミュニティが生まれます。最小の空間で最大のもてなしをする。日本人が精神的に持っているおもてなしの心を4台の屋台を使って表現します。キッチン屋台はもちろん、茶屋や箱庭など風情を楽しむ屋台もデザイン。そして、日本を代表するコンテンツとして、キセル、和菓子、お茶、草履を紹介します。いずれも古くから日本に存在するものですが、現代的な視点を持って表現しています。是非、屋台でこれらの日本の文化をおもてなしと共に愉しみ、ひとときのコミュニティを作ってってください。



長坂常(スキーマ建築計画)

建築家。建築、インテリアから家具に至るまで、幅広い分野で設計活動を行う。

1998東京藝術大学美術学部建築学科卒業同年、スキーマ建築計画を開設。

2007事務所を上目黒に移転し、ギャラリーとショップなどを共有するコラボレーションオフィス「HAPPA」を設立。

2013-東京藝術大学美術学部建築学科非常勤講師

代表作：建築:SAYAMA FLAT (2008)、奥沢の家(2009)、ハナレ(2011)、TAKEO KIKUCHI (2012) 等

インテリア:LLOVE (2010)、Aesop Aoyama(2011)、papabubble Daimaru(2012)、EEL Nakameguro (2013) 等  
家具:UDUKURI (2012)、ColoRing (2013) 等

受賞：2008 5th International Bauhaus Award 2等賞/SAYAMA FLAT

2013/JCD国際デザインアワード2013[ショップ空間]カテゴリー  
金賞/TAKEO KIKUCHI+銀賞/papabubble Daimaru

---

## ■ 現代のたばこ盆とキセルケース

大航海時代の16世紀、スペイン、ポルトガルから日本へ初めてたばこが紹介されました。すぐに国内でも栽培が行われるようになり、喫煙は普及していきます。日本では商業がこの頃から盛んになり、貴族や武士といった身分が高い人々だけでなく、一般庶民の暮らしも豊かになっており、大衆文化も大きく広がっていきました。

江戸時代(1603年~1868年)になると、ますます文化は成熟していきます。皆さんがご存知の浮世絵などの大衆向けアートもこの時代に生まれました。喫煙具もまた、最初はオランダなどヨーロッパの模倣でしたが、竹や陶器など日本特有の素材も用いられ、使う場所や階級、用途によってデザインも多様化していきました。葉たばこを細かく刻む技術が出来てからは、キセルの火皿が小さくなり、持ち運びがしやすくなりました。それによってファッション・アイテムに近いものとなり、凝った装飾のキセルが多く登場しました。

同時に持ち運ぶためのたばこ入れが生まれました。日本は着物文化だったので、衣類にポケットがありませんでした。そこでキセルや葉たばこを入れるケースが作られ、腰の帯に引っ掛け、ストッパーとして細工を施した根付が使われるようになりました。現在、ヨーロッパでもこの時代に制作された根付はコレクターズアイテムとして人気の高いものになっています。商家では、丁稚奉公を終え給金をもらえるようになると、主人からケースを祝いとして贈られる習慣がありました。こういったケースを持つ事は一人前の社会人としての証でもあったのです。

一方で家庭用としてはたばこ盆が生まれました。お盆に種火入れ、たばこ入れ、灰落としとキセルがセットになったものです。お客様がいらしたらお茶より先にたばこ盆と言われるほど、おもてなしには必需品だったようです。大衆芸能であった歌舞伎などの影響もあり、様々な素材やおしゃれなデザインが登場しました。江戸文化で発展した「粋」の精神はこういった喫煙具にも反映され、より凝った良いものを持つ事がステータスになっていきました。

19世紀に日本は西欧化し、江戸文化などは次第に無くなっていきました。同時に紙巻きたばこやマッチの普及によって次第にキセルは衰退していきました。しかし、近年になって、単純に喫煙するだけではなく、喫煙の時間を愉しみたいという志向が高くなってきました。キセルを使ってゆっくり吸うという行為と、伝統工芸や文化の意識の高まりが喫煙具にも反映されてきています。

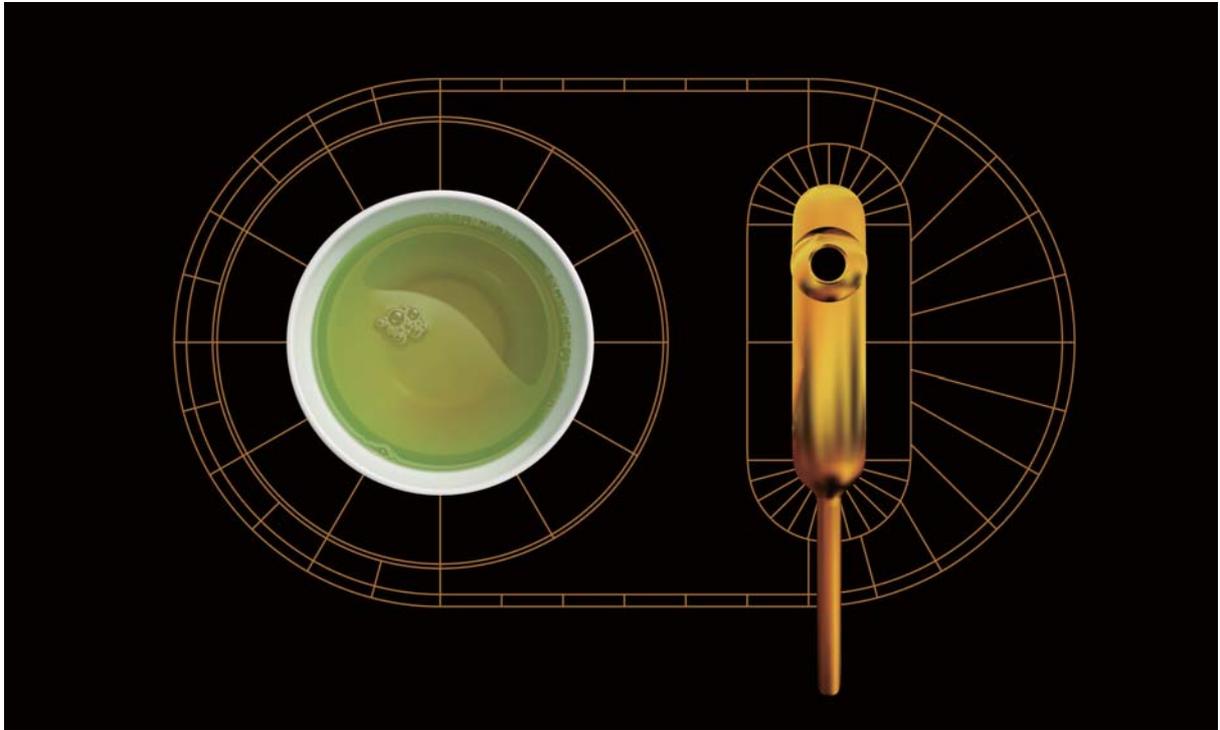
今回私たちは、その部分に注目し、新しい時代におけるキセルの愉しみ方を提案すべく、現代のたばこ盆とキセルケースを考えてみました。新たばこ盆はお茶やコーヒーといった飲料とたばこの香りがミックスした際のフレーバーを愉しむためのキットです。

もう1つはキセルホルダーの機能を持つ帽子です。現代において私たちは着物を着る習慣がなくなり、欧米と同じ服を着ています。江戸文化が着物に合うファッションアイテムとしてホルダーや根付を生んだように、現代の私たちは同じファッション的視点を持ちながら帽子というアクセサリーにその機能を付加させました。

歴史的な文脈を見据えながら新しい時代や文化に対応出来るデザインによって伝統を新しいカタチで受け継いでいく。私たちはこのように考えています。

---

■ 新たばこ盆 Designed by Jo NAGASAKA in collaboration with Jin KURAMOTO



© TOKYO BUSSANTEN designed by JIN KURAMOTO STUDIO

古来から日本で使用されてきた“たばこ盆”を現代的解釈で考え直し、キセルとトレイ、カップをセットにしたものです。お茶やコーヒーなどの飲み物と、たばこの味や香りを同時に愉しんでいただくことで、より豊かな時を過ごしていただきたいという思いが込められたキットです。くつろぎの時間をよりよく楽しむことができます。

“たばこ盆”は400年程前に登場したキセルを吸う際に使用する火入れと灰を捨てる容器がセットになったもので、華やかな装飾が施されているものが有名です。

キセルの素材は銅を使用。経年によって色も変化し、使えば使う程、馴染んだ質感を感じる事が出来ます。コンセプトを長坂 常が、プロダクトデザインを倉本 仁が担当しました。



倉本 仁 / JIN KURAMOTO STUDIO  
1976 兵庫県生まれ  
1999 金沢美術工芸大学 産業美術学科 工業デザイン専攻卒業  
2000 - 2008 家電メーカー勤務  
2008 JIN KURAMOTO STUDIO設立  
2013 金沢美術工芸大学非常勤講師

物事の本質を明快な造形表現で伝えるアプローチで家電製品や家具、照明機器、日用品等の様々な製品デザイン開発に携わり、国内外のクライアントにデザインを提供しています。企業や地場産業のデザインコンサルティングにも実績があり、商品企画/デザイン開発、構造設計や金型開発を含む総合的な開発サポートを行います。

iF Design賞、Good Design賞等、受賞多数。

---

■ 傾奇者ハット型キセルホルダー by ÉDIFICE in collaboration with MANIERA



古来から日本人がキセルの持ち運びに使っていたケースを現代的解釈としてファッションアクセサリであるハットにキセル、刻みたばこを収納出来る機能を付けました。上品なスタイルを提案する日本のセレクトショップ、ÉDIFICEと帽子の本質を追求し常に時代に合ったクリエイションを提案し続けるブランドMANIERAとのコラボレーションによるものです。現代の傾奇者をテーマにしたハットには四季をイメージした日本独自の染料を使用し、春は桜、夏は藍、秋は柿渋、冬は墨を手塗りで1枚1枚仕上げています。テーマとした“傾奇者”とは戦国末期から江戸時代初期にかけて都市部で流行した異風を好み、派手な身なりをし、常識を逸脱した行動に走る者たちの事です。

MANIERA

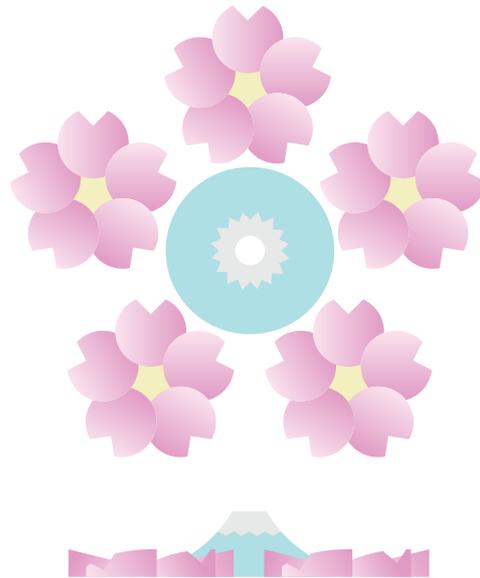
2005年に設立。彦坂尚史が手掛ける。“名脇役でありたい”(主役を人間あるいは洋服であるとするならば、たまに主役となれるような存在でありたい)というコンセプトのもとでクリエイションを行う帽子ブランド。過去の手法や技法に敬意を表しつつ、決してデザイン本位ではない帽子の本質(被り手の求める付け心地、洋服との相性、普遍的な美)を追求しています。

ÉDIFICE

1994年に設立したセレクトショップ。ファッションだけでなく、ライフスタイル全般に興味を持つ高感度な男性顧客層を主な対象とし、時流を捉えたデイリーカジュアル〜ドレスウェアまでを提案。こだわりを持ち、居心地良く空間演出された店舗で、高品質な商品と接客でエディフィス流の大人の男の上品なスタイルを提案しています。

---

■ 和菓子 甘養亭 / KANYOU TEI : The collection of traditional Japanese sweets



甘養亭は富士山の麓、身延の地で1626年創業した老舗の和菓子店です。

身延は12世紀後半～14世紀前半（鎌倉時代）に仏教の僧、日蓮聖人によって開かれた久遠寺を背景に、しだれ桜や千本杉、数々のお堂、お寺など自然と歴史の融けあう地域です。甘養亭はこの地で388年歩んできました。今回のプロジェクトにより、古くからの伝統を守りながらも、時代にあわせた新たな感性を吹き込む和菓子作りにチャレンジします。今回紹介する落雁は、生地を木型で打った茶の湯の発展を背景に育まれた日本古来の和菓子です。使用される砂糖は、きめ細かで口溶けがよい和三盆という日本でしか作られていないものです。

日本人の心をあらわす「和菓子」を世界中のみなさまに親しんでいただきたく、1626年以来受け継がれてきた技に世界で活躍する感性豊かなクリエイターの息吹を吹き込み、伝統的な和菓子の新たな物語が始まります。五感のすべてでお楽しみ下さい。

落雁 - 桜

日本を象徴する桜の花の形に天然素材で淡く色づけをした、伝統美を追求した落雁です。

10個セット：¥1,800(予定・税別)

材料：徳島産和三盆糖、金粉、銀粉、竹炭、天然由来の色素)

落雁 - 富士山

古くから伝わる和三盆の落雁に、上質な天然素材によるフレーバーと新しいデザインを織り交ぜた、今までにない落雁です。

6個セット：¥2,000(予定・税別)

材料：徳島産和三盆糖、京都産抹茶、レモンパウダー《アメリカ産、イタリア産の混合》、ヨーロッパ産ストロベリーパウダー、マレーシア産シナモン、アメリカ産ペパーミント、天然由来の色素)

■ 日本茶 151E / The collection of traditional Japanese green tea



古くよりお茶の栽培が盛んな九州地方。その玄関口である福岡に拠点を置く151E(いちごいちえ)では、九州7県から厳選した個性豊かな茶葉を取り揃えています。さらに、九州各地から取り寄せた郷土色豊かなお茶菓子も充実した品揃えで、お茶の楽しみを一層引き立てます。

151Eがセレクトした茶葉は、福岡・八女煎茶、鹿児島・知覧深蒸し茶、長崎・世知原玉緑茶など、九州各県の茶畑を巡って吟味したここだけの逸品ばかりを集めました。また、旨味や渋みを引き出す“火入れ”と言われる焙煎作業は、日本に39名のみ認定された日本茶鑑定士の一人で、九州のお茶に精通する山科康也氏の手によるものです。

九州の豊穡な大地と感性豊かな日本人の手で育まれた、お茶の奥深い味わいとおもてなしの心をおたのしみください。

※九州は東京から遠くはなれた西に位置する広大な島で、豊かな自然と多くの農産物が生産され、なかでも日本茶は全国の約4割を生産しています。その歴史は古く、12世紀の鎌倉時代に日本最初の禅寺を開いた栄西禅師が、中国から持ち帰った茶の種子を九州北部の佐賀県背振山に植えたのが始まりとされています。

■ 草履 祇園ない藤 / JOJO New shape of flip-flops from Gion, KYOTO



京都で100年を越えてはきものを作り続ける、「用と美」伝承によるモノ作りの老舗、祇園ない藤。確かな技と情熱を秘めた職人が、日々の工夫と美意識、その心づくしの手仕事によって、美しい日常の名品に、時を超える命を吹き込みます。原点を見つめながらも未来作りに挑戦する、ない藤の新しい取り組み mana PROJECT。

その第一弾として生まれた、まったく新しい形のビーチサンダル『JOJO』は普遍的な機能性と構造美を併せ持つ、日本のモノづくりで美しい日常を彩る履物です。この新しい形の“ぞうり”JOJOは、様々な場所、好みと出会って取り込まれ、多様な顔を持つ使い手に寄り添うデザインになっています。今と古がまぜこぜの履きやすく美しい着脱自在な履物を街で浜辺で室内でと普段の暮らしに利用し、その楽しみの中に日本の風、日本の眼差しを感じてください。

JOJOの特徴でもある印象的な形の特殊なパーツは、前ツボと言います。この前ツボが指肢にぴったりとフィットして力が入りやすい構造です。「長く履くと疲れる」という悩みを大幅に軽減します。素材には哺乳瓶の乳首に使われる特殊コムを使用しています。ゴム底には、強度や耐摩耗性に大変優れているSBRというゴムを採用しました。ゴム底の中には、へたりにくく、弾力性があるEVAを使用し、硬いアスファルトの上でも足に負担をかけないようにしています。

花緒は、ゴム草履で足を痛めるポイントのひとつです。『JOJO』は、この花緒部分に水着などで使用される、摩擦に強く伸縮性に優れた素材を選び、花緒の構造に工夫を凝らし、足当たりの良さと、長時間履いても疲れない抜群のフィット感を実現しています。

# TOKYO BUSSANTEN 07 - 13 April

" TOKYO IMAGINE "  
Padiglione Visconti  
Via Tortona 58

## Press Preview

Monday 07 15:00 -

## Cocktailes

Monday 07 17:00 -

Tuesday 08 10:00 - 21:00

Wednesday 09 10:00 - 20:00

Thursday 10 10:00 - 23:00

Friday 11 10:00 - 20:00

Saturday 12 10:00 - 20:00

Sunday 13 10:00 - 20:00

## New Products by

長坂 常 / Jo NAGASAKA (Schemata Architects)

長坂 常 / Jo NAGASAKA x 倉本 仁 / Jin KURAMOTO (JIN KURAMOTO STUDIO)

## Presentaiton by

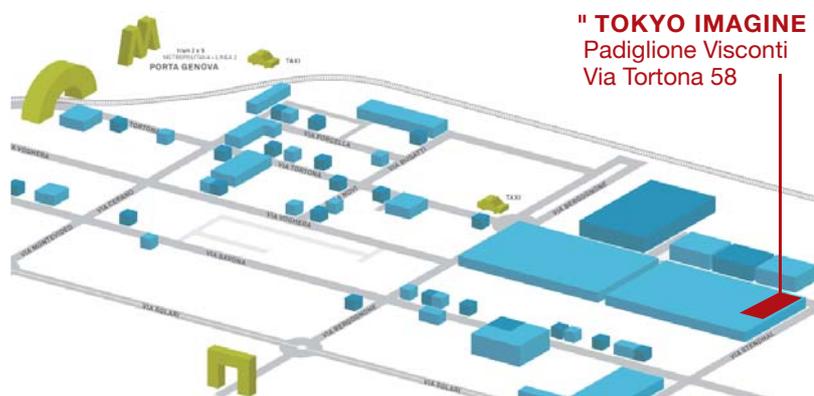
歌舞伎 / The Art of KABUKI: The Tradition of Theatrical Costumes across 400years

甘養亭 / KANYOU TEI: The collection of traditional Japanese sweets

151E: The collection of traditional Japanese green tea

祇園ない藤 / JOJO: New shape of flip-flops from Gion, KYOTO

ÉDIFICE: Japanese men's style brand



<http://tokyobussanten.jp>

Press Contact / Yasuko NATSUME (Lepre) ynatsume@mac.com + 81 90 4602 0612

□お問合せ

For General

東京物産展 info@tokyobussanten.jp

For Press

ご取材・インタビュー・撮影・ビジュアル素材などのお問合せ先

Lepre (レプレ) 担当: 夏目康子 TEL: 090 4602 0612 mail: ynatsume@mac.com